

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(3/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
森林総合産業特区 (北海道下川町)	4.0	4.2	3.6	4.0	<p>・国有林材等の安定供給システム販売の公募がなかったことや、ハウスメーカーの製造拠点が本州に移転されたことなどの事情のため、目標を達成できなかった項目もあるものの、概ね良好な成果を挙げた。令和元年度に公募が無く、令和2年度に公募される予定と見込むことについて、もう少し説明があった方がよい。</p> <p>・評価指標(2)「林業・林産業生産額」は、一進一退を繰り返し、販売先や市況によって左右されており、販売の方はまだ安定性を確保しているとは言いがたく、販路や需要の開拓が今後の発展には不可欠。</p> <p>・評価指標(6)「電力エネルギー自給率」については、引き上げた目標値をさらに上回る成果が出ており、注目に値する。財政支援の積極的活用や、地域独自の取組についても、活発であると評価できる。一方、国の金融支援措置が活用されないのはなぜか、制度上の「使いにくさ」があれば指摘願いたい。</p> <p>・エネルギー自給で多大な成果を挙げている。公共施設主導でボイラーを導入したことが大きい。エネルギー自給が住民の生活を支えるという次の段階に進もうとしている。</p>